

森あや子
Ayako Mori News
ニュース2016
夏秋
号

発行: 福岡市議会議員 森あや子

〒813-0044 福岡市東区千早5-17-18 TKビル2号館1階

TEL.092-662-5077 / FAX.092-662-5097

<http://ayako966.blog.fc2.com/>

2025年問題 私たちの暮らしはどうなる？

団塊の世代が75歳以上となる2025年。日本は過去に例を見ないスピードで人口構造が変化しています。今年6月に策定された「福岡市保健福祉総合計画」では、高齢者や障がいのある人をはじめ、すべての市民が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らし続けることができる「健康福祉のまちづくり」を、地域住民や企業や団体などが一体となって推進していく計画となっています。

地域の絆づくり ～人を育て地域で支える福祉のまちへ

平成26年に「地域包括ケア・アクションプラン」を作成し、3か年計画で取り組みを進めていますが、コミュニティの希薄化対策など課題は満載です。各分野の連携と現場の声を反映させる「地域ケア会議」の

充実をはじめ、地域福祉ソーシャルワーカーの配置を行う社会福祉協議会との連携強化や、地域の絆づくりに力を入れるべきと要望しました。

「見えない障害」 ～“縦割り”ではない支援を！

65歳未満の方が要介護、要支援となる原因の57%が脳血管疾患です。事故やけが、脳血管障害などの原因により脳に損傷が起こった場合、後遺症で高次脳機能障害となることもあります。外見からはその症状が分かりにくく「見えない障害」とも言われ、認知障害、記憶障害、行動障害、感情のコントロールが難しいなど、多大な困難を抱えます。

子どもや若者、働き盛りの方の中途障害は、精神的にも辛く、経済的な面でも生活が大きく一変します。周囲の理解がなければ、地域での孤立も招きます。福祉サービスの融合化など、制度の縦割り解消を進めることが重要です。また行政の窓口業務についても、各サービスがワンストップで提供できる「福祉コンシェルジュ」の配置も必要です。

人間らしい尊厳が守られる地域へ 制度の充実を！

人間らしい尊厳が守られるために、ヘルパーやケアマネジャーといった有資格者へは、さまざまな障害への理解、能力を引き出す技術、当事者の立場で考え寄り添って対応できる力量など、資質の向上が求められます。誰もが良質な支援を受けられるよう、研修などを受講し学ばれた方が事業所に持ち帰り、実際の支援に携わる方たち全員の質の向上に繋げる手立ても必要です。

治療や訓練をする体制があり、その担い手が育ち、そして働き続けられる労働環境があることは、社会の宝です。その制度充実のため国への要望を求めました。

市民の自助努力、地域や団体等の共助の力を最大限引き出し、後押しできる福岡市政に！

人は食べた物、飲んだ物、吸った空気です。食の安全と、その安全を確保するための環境保全も重要です。「健康福祉のまちづくり」の実現をめざし、これからも行動していきます！